

水虫は白癬菌というカビの一種によって起こる感染症です。足水虫は、足の裏や指の付け根に水ぶくれがたり、皮が剥がれたりします。多くはかゆみがあります。が、爪水虫はかゆみはありません。患者には感染しているという自覚があまりないのです。

水虫にかかった爪は、白や黄に濁つたり、厚くなつてボロボロと欠けたりします。ひどくなると変形もします。自然に治ることはほとんどなく、放置すればどんどん進行し、ほかの爪にも移ります。日本臨床皮膚科医会の調査によると、10人に1人が爪水虫にかかっ

皮膚の病気あれこれ

③

岩崎泰政

爪水虫



イラスト・霜野美香

てていることが分かつていま十分ですが、爪水虫は成分です。高齢になるほどかかるが浸透しにくいため、飲み薬が必要です。ただし、飲んでおられれば、爪水虫の治療は塗り薬で

起きることがあります。これまで、高齢者で既に肝機能が悪い人たちは、飲み薬の治療ができませんでした。ただ最近、飲み薬に匹敵する効果のある塗り薬が開発されました。1日1回塗るだけで厚い爪を透過し、爪の奥深くに潜む白癬菌までやっつけます。それでも爪が生え替わるには1年近くの時間がかかります。爪が濁つたり、厚くなつたり、足の水虫と同じ症状が出たりする病気はほかにあります。高齢になるほどかかるが、爪水虫は足の水虫から進みます。爪水虫がある場合は、たいてい足の水虫もあります。銭湯やスポーツジム、プールといった不特定多数の人がはだしで利用する施設では、感染の起こる可能性があります。

日常生活でも、家庭内で菌を床にばらまいているかもしれません。時々、小さな子どもの水虫を見かけますが、両親や祖父母から移った可能性があります。家族に感染を広げないためにも、まずは自分の水虫をしっかり治しましよう。

(岩崎皮ふ科・形成外科院
長=福山市)